

# 都留文科大学の学生たちが語る 都留と将来

## なぜ、都留文科大を選択したか

川上 大学案内を見ていたら、学長の談話が載っていて、他の大学と比べても一番目を引きました。人間教育ということが書かれていて、すごく家庭的な雰囲気があるのがいいと思ったのです。それから、環境に恵まれているということも一つありました。こちらに来るまでは田園的なところかと思っていたのですが、初めて駅に降り立ったときは、ああ町だ、と感じました。(笑い)少し残念だったのは、城下町だったせいもあるのでしょうか、意外と道路が狭いので、車が危ないなと感じたことです。

渡辺 共通一時間でボーダーラインというのがあるから、それに応じて選ぶわけですが、二次試験が国語しかなかったということ、それから、住んでいた川崎と近いということが大きかったですね。私の場合、これだから絶対に都留というのは、あまりなかったですね。

恵南 小学校の教員になるのを目的として、大学に入りました。正直なところは、小学校の免許を取れば、私はどこでも良いと思っていたところがあるんです。募集要項をみていて、環境も良さそうだし、都留に行こうと

## 座談会出席者（敬称略）

恵南 剛  
初等教育学科1年（広島県出身）

都倉公済  
社会学科2年（都留出身）

南 ゆり子  
国文学科1年（三重県出身）

宮坂真由美  
国文学科1年（長野県出身）

川上弘郁  
国文学科4年（長崎県出身）

渡辺よう子  
英文学科2年（神奈川県出身）

決めました。

都倉 新聞関係の仕事につきたいと思っていたので、社会系、経済系の大学に絞っていました。なおかつ大学でラグビーもやりたかったのですが、高校の最後に、大きな怪我をしてしまったので、ラグビーはそこそこにして、社会学系の大学はどこだということになったとき、親から近くて金がかからないから是非都留文科大学に行ってくれと言われました。(笑い)他の大学と違うユニークな大学だということにひかれて入りました。

南 都留文科大学にどうしても来たいから来たという意識は、初めはありませんでした。でも、パンフレットを見たら環境が良さそうだし、生活費は六万円あればやっていけるといふふうを書いてあったんです。(笑い)私の高校も文大のように山に囲まれていましたので、高校の先生も文大に行けばすんなり環境に慣れるとおっしゃっていました。自分が本当に勉強していきたいものを見つけ、勉強に打ち込んでいくには、やはり環境が大切だということ、三重とは離れているのですが、快く送り出してくれました。下宿の管理人さんや周囲の人達がとても親切で温かい方が多く、こちらに来てから日が経つほどに、都留に来

キャンパス内の写真

で良かったなと思えるようになりました。一生懸命勉強していくにはとても良い環境だし、都留に来て良かったと思っています。

## 出身地から見た都留

川上 私の田舎は人口三千の町で、都留よりずっと田舎です。長崎は半農半漁の兼業農家というのが下火になって、出稼ぎが多くなっています。都留の場合、企業誘致なんかも積極的にしているからでしょうか、働く場があるので、もし大学がなくても若い人が多いのではないかと感じます。

渡辺 出身地は川崎ですけど、市政も市民本位ということで、例えばゴミなんかも日曜日以外毎日収集してくるんです。こちらでは、一日おきで、燃えないゴミは月曜日しか集めてもらえない。収集日が国民の休日になると、その前後振替えないから、かなり長い間自分のところでゴミを持っていないといけないのは、不便に感じたことです。多摩丘陵は山あり谷ありのところなんですけど、こちらは多少傾斜がありますがなだらかなので、自転車に乗ってどこへでも行けるのはいいですね。それからこちらは空気がいいから、夜空の星がとてもきれいに見えるのが素敵です。

恵南 広島市内ですが、私の住んでいたところはベッドタウンです。人口は多いけれど、特に何も無いところなんです。こちらには水がいいですね。広島市も太田川に三角洲があって、水は豊富なところなんですけど、それ以上に都留の水が良かったので驚きました。南 本当に水がおいしいし、水道料金が全国でいちばん安いというのはいいですね。

宮坂 私の出身は長野の諏訪市です。精密機

械工業の盛んなところで、ほとんどの人がみんな、精密機械工業関係の仕事についているような感じのところなんです。私の住んでいたところは学校が近くにあって、環境は静かですごく良かったです。都留に来てびっくりしたのは、夜、女の子が一人で出歩けないということですね。夜道が暗くて、外灯が少ないと感じました。外灯をもっとつけていただけるといいですね。

南 出身は三重県の津市です。ここに来て、山が多いのには驚きましたが、生活していくのに不自由はしないから今は平気です。学園都市を謳っているだけあって、下宿している学生が暮らしやすいように、分量にしてもキヤベツでも四分の一の大きさがあつたりして、学生の細かい生活にまで気を配ってくれているなと感じました。

川上 桂川祭でも都留の歴史などについて取り上げていましたが、例えば、平栗のほうで埴輪が多く出るといふことを、地域の人がどれだけ知っているのかなと感じました。文化会館に若干ありますけれども、あれだけではちょっと手薄かなと思います。

宮坂 最近、尾県資料館に行ってきたのですが、尾県学校の変遷、教育関係の展示が充実していて素晴らしいと思いました。ただ、遺跡などの展示がほとんどありませんでした。そういう博物館的な施設を今後造っていただけたらいいなと思います。

## 都留市と教育

川上 こどもまつりで、小学校の先生からいろいろアドバイスをしていただいたりして、都留はすごく教育に熱心なところだなと感じまし

た。市内よりも市外の先生と話す機会のほうが多くて、市内の学校の様子についてはちょっとわからないところがあるので、市内の先生方と学生がもっと交流できるようになれば、すごく参考になると思います。

恵南 現場をあまり見ていないのでコメントしにくいのですが、現場を見る機会がもつとあれば、実際に教壇に立つようなことになったときには、役に立つと思います。

そのままだ先生になるというよりは、三年生とか前の段階でそういう機会があればいいと思いますね。

渡辺 例えば、大学は春休みに入っているんですけど、小学校、中学校はやっているときがありますから、そういう機会を利用して、授業を見学させていただくとか、先生と話をする場があつたら、もつともつと力になると思います。

川上 市民と学生との交流ということでは、市民大学のように、近くに住んでいる人達を交えての講義もできると思います。その場合、市民の方々に興味なり、勉強しようという気持ちがあるのかどうかわかりづらいんですが、できるとすれば教育関係の講義だと思っています。

渡辺 コンピューターについては、公開講座を開きましたが、市民の方々からもつと要望があれば、まだいろいろできると思いますね。今のところ、こどもまつり、八朔祭、桂川祭などで、市民の方々との交流が図られていると思います。ただ、去年の桂川祭は休みの日が一日しかなかったもので、一般の人が参加しにくいというのがあったと思います。

恵南 今年の桂川祭は、木、金、土、日で、金曜日が文化の日で、休み二日の上に、土曜日も入るから市民の人も多分来やすいと思

ます。実行委員会のほうでも、去年辺りから市民との交流ということを意識していますし、今後でもできるだけ市民に開かれた大学というのを意識してやっていきたいと考えています。

川上 都留くらしい規模の都市で、こどもまつりが、市民と一体になって行われているというのは、全国でもなかなか例がないと思います。こどもまつりが長続きしている理由というのは、学生にとっては教育という問題があり、地域のお父さんお母さんにとっては子供という一番身近な問題があるからだと思います。市民と学生との接点をどこに見つけていくかが、これからは大事だと思います。

## 街全体がキャンパス

川上 大学セミナーハウスというのが、八王子のほうにあるらしいですね。そういう形で、例えば、郡内地域の教師と教育学を学ぶ学生のセミナーとか、サークルごとの芸術的な交流とか、建物なり場所が設定できれば、かなりできるのではないかと気がします。

渡辺 大学にいろいろ施設もあるので、是非市民の方も気軽に来ていただいで、学生もそこで勉強するという公開講座がもつとあつてもいいと思います。

南 セミナーなんか大事だと思いますが、市民と大学生との交流があまり一般的ではなくて、催しにしてもまだ頻繁に行われているとはいえないと思います。市の催し、例えば、スキー教室でもすごく安いので、私は行くことにしているんです。「広報つる」を読んでみると、安くてよい催し物があるんですけど、友達を誘っても知らない人のほうが多い。だから都留市でどんな催しがあつて、自分たちが



どういふ催しに参加できるかということ、学生のほうで意外と知らない面があると思います。学生のほうも、市の催しに参加したりして、お互いの交流を深めていこうという気持ちも大事ではないかと思えます。そうした交流があれば、市民の人が学生に対して求めていること、例えば、こういう講座を開いてほしいといったことも、さり気なく聞けるのではないかという気がします。改まって集まった場で意見を聞くのではなく、普通の会話から市民の方の生の声を聞くことで、学生側からも提案もできると思うんです。

川上 もし、街全体がキャンパスというふうには思えなくなっているとしたら、学生の居住地が大学近辺に固まっているということが影響しているのではないのでしょうか。先輩に聞いたことがあるんですが、以前は十日市場のほうから古い下宿が点在していたらしいですね。今は市外から資本が入って、管理人もない建物が建っているの、自治会や市民とのつながりからもどんどん離れてしまっている。寮形式の建物を建てることなども考えていただければと思います。

渡辺 ワンルーム形式の建物が、学校の前にだけ集中しているので、なかなか街全体がキャンパスというふうには感じられなくなってきました。確かに、下宿とか家主さんと一緒に生活するようなアパートが、もっとできればいいと思いますね。

都倉 市民運動会とか自治会の運動会というのがありますが、自治会の運動会なんかに行けば、若い人が少ないから、ヒーローになれるんです。(笑い)そういう催しに学生もどんどん参加していくとよいと思います。

行事を通じて、市民と学生がもっと理解しあえるようになるのではないかと思います。

### 都留から全国へとはばたく

恵南 私は広島ですけど、どうしても広島に帰りたいという気はないんです。一学年二十人くらいの田舎の学校で、子供達に教えたいと思っています。

都倉 都留に二十年間住んでいながら、大学に入るまで、自然に恵まれているということにあまり気がついていなかった。イヌワシのこととか、宝鑑山の周りの自然とか、きれいな水のことなど知らなかった。仮に私が教育関係に進むとしたら、勉強だけでなく、地元の子どもたちや中学生たちにもっと地元の価値、素晴らしさをわからせてあげたいと思っています。

川上 都留で学生生活を送りながら、自分の地元のことにも少し興味を持っていいなと思うようになったのは、すごく収穫だったと思う。将来は地元には帰らないつもりなんです。一応山梨県内で生活したいとは思っているんですけど、教師になるつもりはなかったの、特にこれだというのがないし、幅広いことが学べたのではないかなと思います。他の大学だったらこんなな地元の人達と交流はできなかったのではないかと思います。文大は公立大学ならではの特質が顕著に出ていると思います。大学のカリキュラム内での講義とは別に、こちらで人生勉強みたいなことをさせてもらったなと感じます。

渡辺 川崎市では予算がどんなふうに戻っているのかとか、都留ではどうなのかとか、今まで関心を持ってこなかったなと感じてい

ます。自分自身、具体的に将来どういう仕事につきたいかというのが、まだ固まっていません。英文科なので、英語を生かせるような仕事につきたいとは思っていますが、私はこれだけの力を持っていきますと人前に出せるかという、まだ疑問があるので、もっと学校で力をつけたいなと考えています。

宮坂 都留に来るまでは、地元のことや、地域の問題などをあまり意識していませんでした。都留に来て、そういうことを考えるようになったし、他の大学だったら、学生だけが隔離されているような感じのまま、学生と住民との関わり、社会人との関わりができるといふのは、文大の最大の利点だと思います。将来は、これまでの大学での体験を生かせる職につけたらと思っています。

南 文大は他の大学にはない特色があると思います。全国各地から学生が集まっているということもその一つですが、例えば、アルバイトの面一つをとっても、他の大学でしたら、家庭教師とかありますが、ここには山中湖とか、河口湖とかがあって、リゾートバイトというのがあって、民宿でバイトをすると、掃除から料理から全部なくなるとはいけなくて、結構きついと思うんです。私も一カ月住込みでやったことがあるんですが、その場で学ぶこともすごく多かったですね。文大に来てからできることを、今後も自分で積極的に学んでいって、他の大学ではできない経験を積み、私はこれからの将来に生かしていきたいと思っています。